



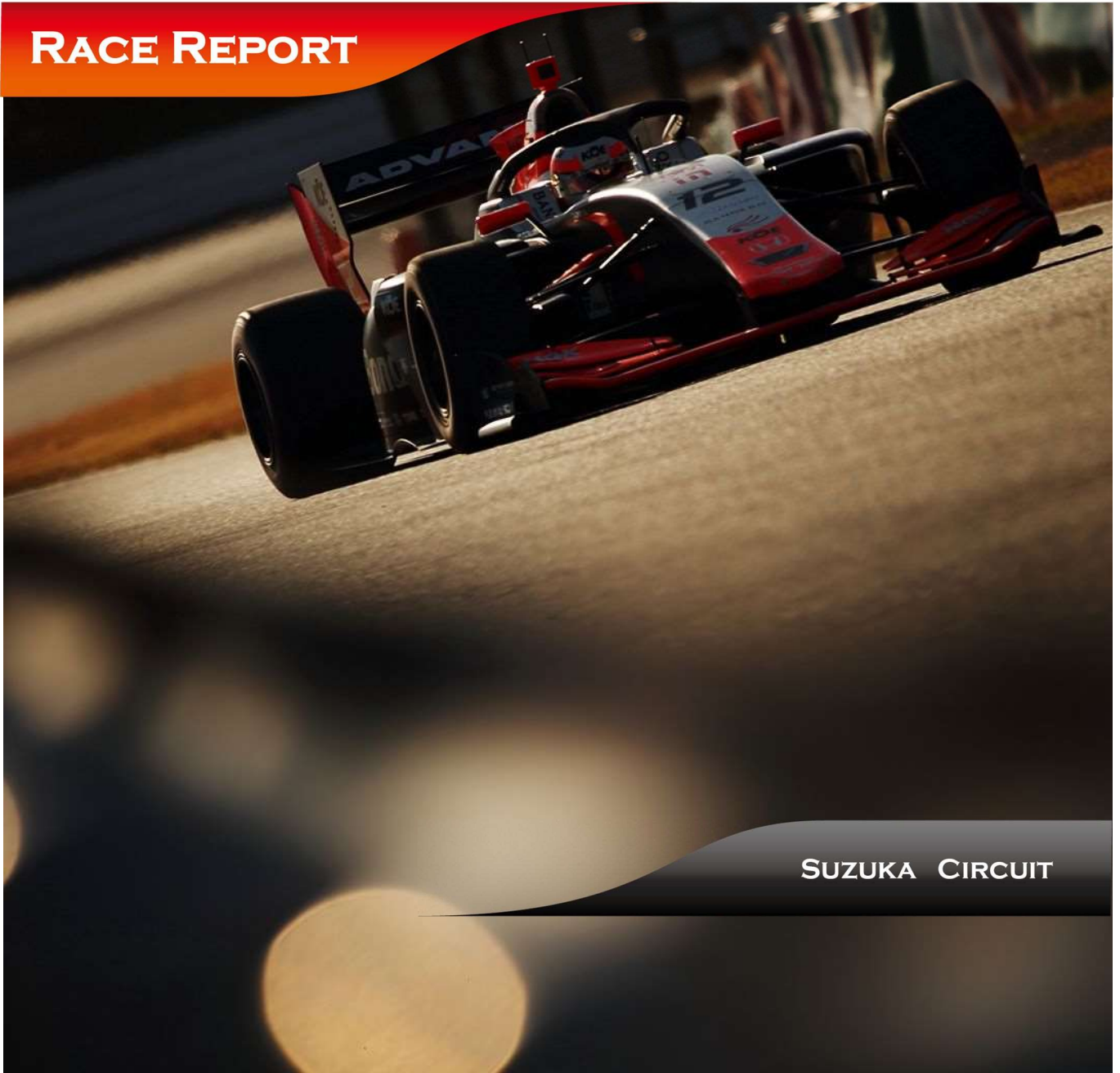
ThreeBond



JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.5/6

RACE REPORT



SUZUKA CIRCUIT



グランプリサーキット初陣！

全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第5戦が12月5日（土）、三重県の鈴鹿サーキットで開催された。タチアナ・カルデロン選手（以下、カルデロン選手）は、前回シリーズ第4戦をオートポリス・インターナショナルレーシングコースで終えた後、日本国内に滞在してシリーズ終盤戦に向け準備を整えてきた。

鈴鹿サーキットは初めて走行することになるが、シミュレータでのトレーニングに加え、一般車両を使って実際のコースを周回してコース習熟を進め、レースウィークを迎えた。

なお今回のレースは1大会2レース制で、土曜日に第5戦の公式予選と決勝レース、日曜日に第6戦の公式予選と決勝レースが開催された。

鈴鹿サーキットはカルデロン選手にとってあこがれのグランプリサーキットである。12月4日（金）のフリープラクティスにおいて鈴鹿サーキットで初めてスーパーフォーミュラのマシンを走らせたカルデロン選手は、「ダウンフォースを使ってF1に近いラップタイムで走る、とても速くてチャレンジングなコースです」と感想を語った。

第5戦 公式予選

12月5日（土）、午前9時30分からの公式予選Q1（Bグループ）に出走した。コースオープンと共にコースインしたカルデロン選手はニュータイヤのスクラブを行ったのち、一旦ピットインして早くもタイムアタック用のニュータイヤを装着、タイムアタックにかかった。

今回は12月の低温を考慮してタイヤを事前に余熱するタイヤウォーマーの使用が許可されており、コースイン直後からタイヤがグリップを發揮することから、カルデロン選手はすぐにタイムアタックにかかり、1分37秒649を記録、セッション終了までにまだ時間があつたことから引き続きタイムアタックを行ったが、タイムの更新はならなかった。順位は9番手に終わりQ2進出はならず、スターティンググリッドは18番手と決まった。

伊与木仁エンジニアは「タチアナ選手にとっては初めての鈴鹿でしたが、あらかじめノーマルカーで5、6週の走行を行ってきたことにより、走り始めからそれなりに走行できていました。当初は今シーズン、鈴鹿が一番苦しむのではないかなと思っていました。予選は最下位ではありましたが、それほど大きなタイム差はつきませんでした。初めてのコースで、よくやったと思います」と評した。

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#5 山本 尚貴 1'34.533
2	#16 野尻 智紀 1'34.648
3	#6 福住 仁嶺 1'34.809
18	#12 Tatiana Calderon 1'37.649



第5戦 決勝レース

12月5日(土)、午後1時15分、気温16℃、路面温度19℃と12月らしく冷え込む中、決勝レースのフォーメーションラップが始まった。すぐにコース上で1台の車両が停止したため、フォーメーションラップが2周追加され、レースの周回数が28周に減算されスタートが切られた。

各車一斉にスタートした直後にアクシデントが直ぐさま発生、オープニングラップのうちにセーフティカーが導入された。

カルデロン選手は脱落車両の分、繰り上がって17番手で再びレースを始めたが6周目に後方車両のオーバーテイクを許し、18番手へ後退した。

その後、規則で定められたレース中のタイヤ交換義務を消化するため、チームは11周終了時点でカルデロン選手をピットインさせたが、タイヤ交換の際に右のリヤタイヤ交換が遅れ、クラッチミートのタイミングが狂ってエンジンがストールしてしまった。スターターを用いてエンジンを再スタートしレースに復帰したものの、コースに戻ったカルデロン選手の背後にはトップを走行中の車両が迫っていた。

「後方の車両が間隔を詰めてこないでタチアナ選手はそのまま走りたかったようですが、青旗が提示されたので無線で『コースを譲れ!』と指示しました」と伊与木エンジニア。カルデロン選手はこの指示を聞いて先頭車両に進路を譲り、最後尾で周回を続けた。

18周目、24周目にそれぞれコース上でアクシデントが発生、計3回のセーフティカーが導入される展開になった。

カルデロン選手はコース上の混乱に巻き込まれることなく、その都度順位を繰り上げて走行を続け、13位で28周を走りきりレースを終えた。



タチアナ選手コメント

金曜日のプラクティスで初めて鈴鹿を走ってから周回を重ねるたびに走りが進歩していましたが、1レース終えて、まだまだ学ばなければいけないことがあるなと思いました。予選ではポールポジションが1分34秒5だったのに対し、わたしは2秒5も離されてしまいました。難しかったのはS字コーナーで、とてもチャレンジングでした。また、わたしの経験してきたF2やF3では予選で繰り返しタイムアタックができましたが、スーパーフォーミュラでは2周しかできない点が異なり、そこも難しかったです。トラフィックに入るとダウンフォースが抜けてしまうのでさらに難しくなりました。更に、セーフティカーの後（リスタートの際）のタイヤの使い方も難しく感じました。スタートのときにはピットとのコミュニケーションがうまくいかず、エクストラフォーメーションラップがよく理解できず戸惑いました。でも、わたし自身あこがれの鈴鹿サーキットでのレースをとっても楽しみました。



道上監督コメント

今回鈴鹿を初めて走るというので事前に一般車両で走ってもらってコースレイアウトを研究したりしたのですが、やはりスーパーフォーミュラでここを走ろうと思うと、金曜日わずか2時間の練習だけで、いきなり予選を速く走るのは難しいです。しかも、この時期のコンディションだと、コースレコードが出るくらいタイヤのグリップも出ますし、スピードも速い中で走らないといけない。まずフィジカル的な面で心配していましたが、その点はまったく問題なさそうで安心しました。予選でのパフォーマンスを見てみると、まだチャレンジできていないところがあったりしました。例えばデグナー1個目に飛び込むときの車速が足りなかった。でも走れば走るほど速くなっているの、明日の第6戦に期待したいと思います。



伊与木エンジニアコメント

レースが荒れましたからタチアナ選手の実力を全て出せたかということそうではないと思う。うちがピット作業をミスしてしまいピットで遅れて、山本選手の前でコースに復帰したとき、無線で「譲れ」と言いましたが、彼女は「なんでだ！」と言い返してきました。確かにそんなに真後ろに来たわけではなかったので彼女にしてみれば「自分もレースをしているのだから、まだギャップがあるじゃないか！」ということだと思います。そういう意味では彼女には強い闘争心がありますよ。でも「青旗が出たのだから譲りなさい」と言って、ヘアピンの手前で譲らせました。全体を振り返ると、スタートから大きなクラッシュがあったりして荒れたので、自分のリズムをつかみきれなかった感じがですね。



粘りの走り！

全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第6戦が、12月6日、三重県の鈴鹿サーキットで開催された。

今回は1大会2レース制で、前日の12月5日(土)にはシリーズ第5戦の公式予選と決勝レースが行われ、カルデロン選手は予選18番手からレースを始め、決勝レースでは13位で完走を果たした。

シリーズ第6戦は伝統ある“JAF 鈴鹿グランプリ”の冠が与えられたレースとして開催され、このレースでは、通常のレースではスタートからフィニッシュまで100秒間使用できるオーバーイクシステム(OT)が、特別に200秒使用できる規則となった。

第6戦 公式予選

カルデロン選手は午前9時35分から始まった公式予選Q1(Bグループ)に出走した。鈴鹿サーキットは前日に引き続き快晴となったが気温は前日よりも低下した。

ニュータイヤを装着してコースイン、2周にわたって決勝レースに向けたスクラブを行いピットに戻り、再びニュータイヤを装着すると1周タイヤをウォームアップしてタイムアタックにかかった。

1周目、全てのセクターで自己ベストを記録して1分36秒764を叩き出し、前日のタイムを0秒885短縮した。その直後にチェッカーフラッグが振られ、そのまま2回目のタイムアタックに入ったがタイムは1分37秒144にとどまる結果となり、出走10台中10番手でQ2進出はならず、スターティンググリッドは18番手となった。

道上龍監督は「今日になってようやく、デグナー2つ目で少しアンダーステアだとコメントが返ってくるようになりました。これは車速が上がったということです。でも、まだセクター毎に少しずつ足りない。ただ彼女は前日同様に走るたびに速くなっているので、もし規則で許されていたなら36秒台が出たところで、もう1セット使ってアタックさせたらもっとタイムを縮められたでしょう」と語った。

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#1 Nick Cassidy 1'34.442
2	#64 大湯 都史樹 1'34.624
3	#15 笹原 右京 1'34.871
19	#12 Tatiana Calderon 1'36.764



第6戦 決勝レース

12月6日(日)午後1時15分、決勝レースが始まった。鈴鹿サーキットは晴天となり、気温は前日とほぼ同じだが路面温度は24℃と前日よりも上がった。

18番手からスタートしたカルデロン選手は、スタートできなかった選手がいたためポジションを1つ上げてオープニングラップを終えた。

2周目、コース上でアクシデントが発生したためセーフティーカーが導入された。更にセーフティーカーラン中に脱落する車両が生じたため、カルデロンのポジションは15番手に繰り上がった。

レースは7周目からリスタートしたが、8周目に再びアクシデントが発生して再びセーフティーカーが導入。この時点でカルデロン選手は13番手へポジションを上げていた。

セーフティーカーラン中に、タイヤ交換義務消化のピットインが許される10周を終えたので、その時点で競技車両の多くが一斉にピットイン、カルデロン選手もピットへ向かった。ここでチームは素早くタイヤ交換を終えカルデロン選手を11番手に押し上げてコースに送り返した。

レースは13周目にリスタートし、カルデロン選手は後方からの追い上げにさらされながら周回を続けたが20周目3度目のセーフティーカーが導入、23周目から再開した。

カルデロン選手の後方からは#15 笹原右京選手（以後、笹原選手）が猛然と追い上げていた。伊与木仁エンジニアは「OT（オーバーテイクシステム）を使って逃げろ！」と無線でカルデロン選手を激励したが、#15 笹原選手もOTを使ってカルデロン選手に迫る。

カルデロン選手は28周目に1分41秒045を記録して後続を振り切ろうとしたが、結局200秒のOTを使い果たして対抗できなくなり、最終ラップの第1コーナー進入で#15 笹原選手のオーバーテイクを許して12番手へ後退。そのままチェッカーフラッグを受けた。



HONDA

YOKOHAMA

BANDERO
DRINK RESPONSIBLY

KOE

URC

KS Material.co

NGK
SPARK PLUGS

QMI
beyond the invisible

3M

KAJIMA

FUJI xerox
富士ゼロックス多摩株式会社

idemitsu

Swift
springs

ODYSSEY
RACING PARTS

KRS
KTEL RACE SERVICE

WPC
WHEEL PARTS CENTRE

SHIBA
Performance Parts

TONE

SP
SP AIR

D.B.P.

MV
MOTOR VEHICLE WEAR

リボバンド

BOSS
COFFEE

STRASSE
RACING

DESCENTE

PATRICK

SULAN
SULAN COOLING

タチアナ選手コメント

昨日の第5戦よりうまく走れたので、今日のレースについてはとても満足しています。クルマのことが信頼できるようになって走り方も変わり、とてもスムーズに走れるようになりました。しかも、最後にいいファイトができました。最後はなんとかディフェンスしようとしたんですが、OT を使いきってしまい、しかもシケインでうまくブレーキングできなくて立ち上がりも鈍ってしまったため、ラストラップに抜かれてしまいました。でもいい戦いだったと思います。ヨーロッパでも戦っていたシャルル・ミレッシ選手よりも前でフィニッシュできましたし、わたしが進歩していることをチームも理解してくれたようで、とても嬉しい気持ちで週末を終えました。もちろんまだ足りない面もあるので、もっとクルマのことを理解して自信を持って走れるようになる必要があります。次のレースではチームの期待にもっと応えられると思います。



道上監督コメント

今日のレースはセーフティーカー（SC）が3回も入って、リスタート直後のペースが上がらないなどの課題は残りましたが、SCが入っても走りが大きくぶれることもなく着実に順位を上げてチームのピット作業が速かったこともあり、あともう少しでポイントが獲れる領域にまで到達しました。今回、チャレンジングな鈴鹿で、ドッグファイトをしながらレースを走りきったのは素晴らしいことだと思いますし、チームとして嬉しい週末でした。タチアナは走るたびにクルマに馴れて、その分速くなって、結果を見せてくれています。最終戦が行われる富士スピードウェイは、開幕前のテストで経験もありますし、事前にシミュレータなどで練習をさせて万全の体制で挑みたいと思います。



伊与木エンジニアコメント

今日はうまくピットインのタイミングが良いところ掴めてピット作業もすごく良かったことありますが、順位を上げて本人もバトルの中に入って戦い、惜しいところでポイントは獲れませんでした。頑張ってレースの終盤でベストラップも記録して、いいレースでした。だんだんクルマに馴れて自分に足りないものは何かが見えてきていると思います。何より素晴らしいのは、ここまでクルマを壊していないこと。彼女は充分スーパーフォーミュラで通用するということが証明できたのではないのでしょうか。



第5戦 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	5	山本尚貴	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1h03'27.718
2	36	中嶋一貴	VANTELIN TEAM TOM'S	1h03'29.067
3	18	国本雄資	carrozzeria Team KCMG	1h03'31.664
4	7	小林可夢偉	carrozzeria Team KCMG	1h03'32.122
5	1	Nick Cassidy	VANTELIN TEAM TOM'S	1h03'32.543
6	38	石浦宏明	JMS P.MU/CERUMO・INGING	1h03'33.559
7	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	1h03'34.063
8	65	大湯都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1h03'34.506
9	3	山下健太	KONDO RACING	1h03'34.904
10	4	Sacha Fenestraz	KONDO RACING	1h03'35.672
11	51	Charles Milesi	Buzz Racing with B-Max	1h03'37.433
12	14	大嶋和也	ROOKIE Racing	1h03'37.715
13	12	Tatiana Calderon	ThreeBond Drago CORSE	1h03'39.929
	39	坪井翔	JMS P.MU/CERUMO・INGING	—
	20	平川亮	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	—
	15	笹原右京	TEAM MUGEN	—
	50	松下信治	Buzz Racing with B-Max	—
	6	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	—
	64	牧野任祐	TCS NAKAJIMA RACING	—
	19	関口雄飛	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	—



第6戦 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	65	大湯都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1h02'59.044
2	6	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1h02'59.493
3	19	関口雄飛	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	1h03'09.493
4	39	坪井翔	JMS P.MU/CERUMO・INGING	1h03'10.019
5	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	1h03'14.136
6	3	山下健太	KONDO RACING	1h03'15.809
7	20	平川亮	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	1h03'16.435
8	64	牧野任祐	TCS NAKAJIMA RACING	1h03'18.268
9	14	大嶋和也	ROOKIE Racing	1h03'18.365
10	38	石浦宏明	JMS P.MU/CERUMO・INGING	1h03'19.807
11	15	笹原右京	TEAM MUGEN	1h03'20.830
12	12	Tatiana Calderon	ThreeBond Drago CORSE	1h03'22.282
13	51	Charles Milesi	Buzz Racing with B-Max	1h03'22.468
14	50	松下信治	Buzz Racing with B-Max	1h03'23.304
15	7	小林可夢偉	carrozzeria Team KCMG	1h03'27.543
16	36	中嶋一貴	VANTELIN TEAM TOM'S	1h03'29.168
	18	国本雄資	carrozzeria Team KCMG	—
	1	Nick Cassidy	VANTELIN TEAM TOM'S	—
	5	山本尚貴	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	—
	4	Sacha Fenestraz	KONDO RACING	—



Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士
1	平川亮	55	55	3+20	3+8	2+15	-	0	4	
2	山本尚貴	55	55	0	5	11	1+15	3+20	0	
3	野尻智紀	48	47	4	1	8	3+20	2+4	6	
4	Nick Cassidy	49	46	5	11	20	4	6	3(QF)	
5	山下健太	34	34	1+15	-	5	6	2	5	
6	福住仁嶺	30	29	6	3	1	2+2	1(QF)	15	
7	国本雄資	29	29	0	4	6	8	11	0	
8	坪井翔	28	28	0	20	0	0	0	8	
9	石浦宏明	27	27	3	15	3	0	5	1	
10	大湯 都史樹	26	26	0	0	0	1	3	2+20	
∴										
	Tatiana Calderon			0	-	-	0	0	0	

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士
1	VANTELIN TEAM TOM'S	74	74	13	13	20	7	21	0	
2	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	78	72	6	8	12	17	20	15	
3	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	64	64	20	14	15	0	0	15	
4	JMS P.MU/CERUMO・INGING	55	55	3	35	3	0	5	9	
5	KONDO RACING	45	45	26	0	5	6	3	5	
6	TCS NAKAJIMA RACING	44	44	2	0	4	12	3	23	
7	TEAM MUGEN	43	42	4	1	8	20	4	6	
8	carrozzeria Team KCMG	37	37	0	4	6	8	19	0	
∴										
12	ThreeBond Drago CORSE	0	0	0	0	0	0	0	0	

